



特 集

## 水島港セミナーを東京で開催

### Contents

- ・水島港セミナー開催報告
- ・2015年コンテナ取扱貨物(速報値)
- ・岡山県産材販路推進協議会において水島港のポートセールス
- ・玉島H.Iの防災対策
- ・水島港港湾BCPの策定について



写真/水島港セミナー会場の様子

# 水島港セミナー開催報告

## 東京で水島港セミナー開催!!

## 最寄り港利用の利点をPR

平成28年3月16日、水島港セミナーを開催しました。第19回目となる今回は、約110の企業・団体から260名を超える多くの方々のご参加をいただき、東京都千代田区霞が関の東海大学校友会館において開催しました。

セミナーの開会に当たり主催者を代表して、伊原木隆太岡山県知事(MITIA会長)が、国際拠点港湾水島港の最新状況や最近の取り組み、水島港の利便性など投資意欲を引き出す話題を首都圏の荷主、船会社、物流企业等からの参加者に伝え、水島港の更なる利用を促しました。

知事は「全国有数の水島臨海工業地帯の海上物流の玄関口として、水島港は岡山県の産業振興にとつて重要な港であり、国際拠点港湾に位置付けられている。全国第7位の取扱貨物量を有する水島港の経済的ポテンシャルの高さを参加者の皆様にお伝えしたい。事業者の多様なニーズを的確に把握し、投資意欲を高めることにつながるサービスを、タイミングを逃さず迅速に提供することが極めて重要である。そのためには水島港の一層の機能強化に取り組みと同時に、皆様にその魅力をお伝えすることで、投資促進、企業誘致を実現したい。本日のセミナーでは、水島港の最新状況を理解して頂き、一層の利活用を検討をお願いしたい。」と挨拶しました。

セミナーでは、伊原木知事が『晴れの国のみなど』水島港』と題して、プレゼンテーションを行いました。まず、水島港のポテンシャルとして、「高速道路のクロスポイントに位置」、「中四国地方最多の倉庫面積」、「年間の降雨日が少なく安定した荷役が可能な晴れの国」、「地震等災害発生が少なく操業停止リスクが低い」、「2時間圏域の人口約1640万人」、「人材確保に有利な教育県」、「外貿定期航路がデイリーで利用可能」などに加え、全国有数の水島コンビナートを背後圏に有する優位性を伝えました。

次に、水島港の現状と機能強化への取組として、ハード面では国際コンテナターミナルの整備が進み、水深12m耐震強化岸壁を含む3バースにはガントリークレーン3基を配備し、コンテナ船3船同時荷役が可能なることを伝えました。ソフト面では全国初の港湾運営会社による効率的な運営を始めていること、特区認定によりナンバープレートなしでの走行が可能となり、三菱自動車工業(株)水島製作所を中心とする「中四国の完成自動車配送拠点」となっていることを伝えました。

最新情報として、JIA関連企業の立地が決定し、西日本の飼料穀物基地が形成されることとなり、工事が順調に進んでいること、一層効率的な荷役を実現することを目指し、4号埠頭のガントリークレーンを6号埠頭に移設し4機体制とする予定であることなどを紹介しました。

そして、物流拠点の玉島地区と生産拠点の水島地区を結ぶ新高梁川橋梁が平成28年度末の供用開始予定であり、両地区の移動時間短縮と物流コスト削減の効果をPRしました。伊原木知事は、こうした水島港の利便性向上を示したうえで、水島港利用率が3割程度にとどまる岡山県内の輸出入コンテナ貨物の現状について、最寄りの水島港利用とするメリットについて、岡山県内の輸出入コンテナ貨物の輸送コストが、「輸送コストのうち、高いのは陸送費用だ。水島港を利用すれば、神戸港を利用する場合と比較して、海上運賃は割高になるものの、目的地によつては陸送費用を削減でき、安くなる場合がある。ぜひ再検討し、試算と比較をお願いしたい。」と述べ、輸出で65%、輸入で63%が阪神港を利用しているコンテナ貨物の水島港利用を提案しました。

続いて、船舶用プロペラ製造では国内で7割のシェアを誇るナカシマプロペラ株式会社製造本部玉島工場の伊東閑雄次長が、『玉島ハーバーアイランドから世界の海へ』と題して講演を行い、会社の事業内容の説明に加え、同社が玉島ハーバーアイランド内への立地を決断した経緯と理由を説明しました。伊東次長によれば、製品をすぐに出荷できることなど水島港の物流環境のすばらしさに着目したことが進出の決め手になったとの説明がありました。また、製品の出荷風景を紹介するビデオ上映は参加者の関心を集めました。プロペラが工場から岸壁まで運ばれ、ガントリークレーンで吊り上げられ船積みされる珍しい光景です。その中では、特に重量物の荷役のためのガントリークレーンが整備されていることに感謝していることを述べていただきました。

セミナー参加者の多くは、続いて開催されたレセプション会場に移動してくださいました。

会場一杯の参加者を前に伊原木知事は「水島港の現状について先程ご説明したが、今度は地元倉敷の特産品を味わっていただきたい。」と、挨拶は簡潔に済ませながらも、JR新橋駅前開設し2年目を迎えたアンテナショップ「とっとりおかやま新橋館」で手に入ることを説明するなど、PRも忘れずに行いました。

続いて、水島港国際物流センター(株)中谷庄吉社長乾杯発声により賑やかに会は始まりました。

その後は、逢沢一郎衆議院議員、阿部俊子衆議院議員、池田道孝衆議院議員、加藤勝信衆議院議員、橋本岳衆議院議員、山下貴司衆議院議員、石井正弘参議院議員、谷合正明参議院議員、神宝謙一岡山県議会議員、中塚周一岡山県議会議員の皆様にご挨拶を頂きながら、水島港の利用促進について、和やかな雰囲気の中で多くの関係者が情報や意見交換を行いました。

最後に、村瀬勇人水島港運協会会長の挨拶で締めくくり、盛会裡に会合を終えました。

レセプション会場に展示した倉敷の特産品は、倉敷張子、花筵をはじめ、デニム生地、ポーチなどで、知事の説明のとおり、岡山県アンテナショップ「とっとりおかやま新橋館」に取り揃えてあります。

提供品のうち、何より喜ばれたのが地酒とお菓子でした。たくさん用意しましたが、あっという間になくなりました。



知事のセミナー開会挨拶



倉敷市出展ブース/人気の地酒



倉敷市出展ブース/特産品



レセプション会場の様子



水島港運協会 村瀬会長挨拶



水島港国際物流センター(株) 中谷社長挨拶



レセプション 知事挨拶



企業プレゼン・ナカシマプロペラ(株)

## 【港湾統計】データからみる水島港のいま】

平成27年の水島港の総取扱貨物量速報値は、前年の9,000万トンと比べて600万トン少ない、

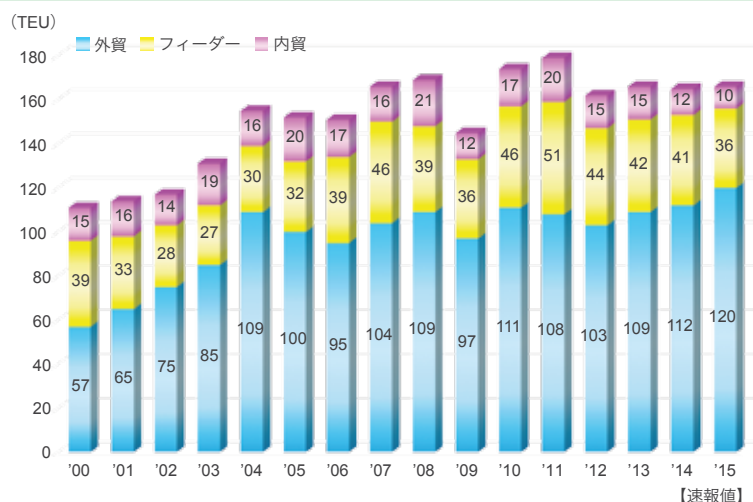
8,400万トンでした。品目としては、原油や鉄鉱石などの輸入減少の影響が大きく、3年ぶりの減少となりました。しかしながら、総取扱貨物量8,400万トンは、昨年の貨物量見合いで、全国第10位となる高水準で、堅調に推移している状況です。MITA会員の皆様には、昨年も水島

港を利用していただきありがとうございます。

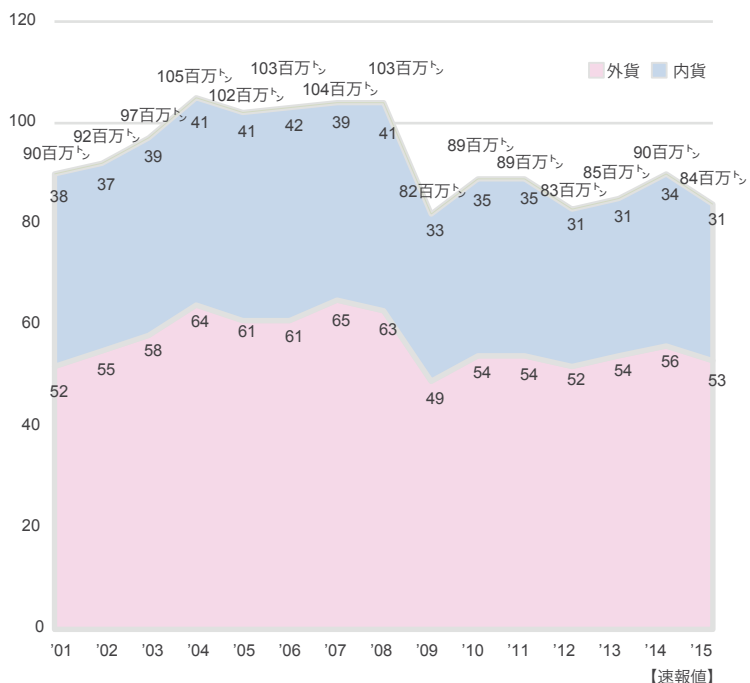
また、水島港のコンテナ貨物取扱量(速報値)は、16万6千TEUとなりました。内訳としては、外貿コンテナ貨物が好調で過去最高となる12万TEUで、3年連続での増加となりました。減少傾向にあるフィーダー貨物と内貿貨物を外貿貨物が底上げした形となり、全体としても若干の増加となりました。

事務局としても、引き続き、東京セミナーを初めとしたポートセールスや、新たなインセンティブ制度の構築なども視野に入れ、水島港の振興に尽力していきます。MITA会員の皆様には、ますますの水島港のご利用をお願いするとともに、今後の取扱量の増加に期待するところです。

(岡山県港湾課)



水島港取扱貨物量の推移



## 岡山県産材販路推進協議会において水島港のポートセールス

平成28年4月22日、メルパルク岡山において、(社)岡山県木材組合連合会(会長：田中信行)が県内の会員企業等と呼びかけて設立された県産材販路拡大推進協議会(会長：豆原直行)による「岡山県産材販路推進協議会(第1回)」が開催されました。この協議会は国内外への県産材の販路拡大に関する情報収集や手段の検討を行うため、セミナーの開催等により実際に木材の流通に関わっているバイヤーや大手ハウスメーカー等との情報交換を行っています。

今回は協議会参加5企業が、2月に韓国で行われた住宅展示会に出展し、現地で人気のヒノキ製品をPRしてきた体験報告や今年度行う中国、韓国展示会出展の可否について協議しました。

MITAは、林産品貨物取扱量拡大を目指し、この機会をお借りし、木材組合関係者の方々への水島港のPRとして、最新の水島港の貨物取扱状況や定期コンテナ航路・便数及び県のインセンティブ制度について説明し、利用促進をお願いしました。



# 玉島HIの防災対策

**災害への備えは大丈夫ですか。**

晴れの国岡山県は、災害が少ない県と言われています。

台風の直撃が少なく、また、県内に活断層がほとんどないことから、直下型地震の発生の可能性が極めて少ない地盤とされています。水島コンビナートでの操業、水島港での荷役等も天候の影響を受けることが少なく、安定した操業ができることのメリットがうたい文句です。

とはいえ、東日本大震災や、先日の熊本地震のように、災害が突然に襲いかかることを忘れてはなりません。日本の国土は地震や台風襲来による風水害に常にさらされているのです。マグニチュード8〜9クラスと予測される南海トラフ地震の今後30年間に発生する確率が70パーセントと極めて高く、特に沿岸部の水島コンビナート、玉島ハーバーアイランド等は、埋立地であるため、地震発生の際には液状化現象が発生する危険性があります。また、津波による被害も懸念されます。台風襲来時には高潮による浸水被害にも注意が必要です。

玉島ハーバーアイランドの災害対策はどのようなものになっているのでしょうか。その現状について見てみましょう。

## ○防災設備・耐震化整備の状況

・6号埠頭 耐震強化岸壁

耐震性能の高い設計となっており、災害発生時には直後に緊急支援物資の受け入れや、復旧・復興に向けた貨物・資材の輸送拠点として位置付けられており、大規模災害に対する地域の災害対応力の強化を裏付けるものです。

・臨港道路(新高梁川橋梁)

平成28年度中の完成を目指して工事が進められている臨港道路(新高梁川橋梁)も耐震性能の高い設計により建設されています。

完成時には、災害発生時の物流機能を確認し、経済活動を支える大きな力となることが期待されます。

## ○国際拠点港湾水島港のBCP策定状況

港湾施設の被災による海上輸送機能の喪失や低下は、県内経済産業活動に大きな打撃を与え、県民生活にも多大な影響を及ぼします。被害を防ぐ努力とともに、被災時の機能確保、迅速な復旧が求められるのです。

皆様の事業所においても、BCPについて検討、整理してみたいかがでしょうか。

※BCPはBusiness Continuity Planの略で、災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から望ましい対応策をまとめたもの。災害による重要業務への影響を最小限に抑え、また、仮に中断してもできるだけ速やかに復旧・再開できるようにあらかじめ策定しておくものです。

## ○防災への取り組み

5月28日、国土交通省中国地方整備局、岡山県ほか高梁川流域市町の主催により高梁川総合水防演習が実施されました。

主会場は総社市内の高梁川左岸河川敷ですが、同時に水島港においても訓練を実施しました。

水門・陸間の閉鎖、航路啓開作業のほか、適切な時期での住民への情報伝達など、タイムライン※に沿った訓練を実施しました。

特に、水島港沖での海面清掃船によ

る航路啓開のための漂流物回収作業の様子をライブ中継し、主会場の大型スクリーンに映し出すなど、災害発生時の港の機能維持の取り組みの必要性を紹介しました。

水島港国際コンテナターミナルにおいては、暴風雨による被害の発生を想定して、積み上げたコンテナの崩壊や荷役機械の逸走を防止するため、固定作業等の訓練に取り組みました。

今回の水防演習では、災害時の港湾施設の機能の維持と回復の必要性を認識するとともに、防災意識の啓発と危険予知の必要性などを改めて確認する機会となりました。

※タイムラインとは

災害に備えて、あらかじめ市町村や防災関係機関が取るべき行動計画を時間軸に沿って定めた防災行動計画です。いつ、誰が、何を、どうするかを決めておきます。

これを事前に準備しておくことで、災害発生時に慌てることなく、目的意識を持って、行政、防災組織、住民が連携して行動することができま

す。いずれにせよ、地震や津波は自然現象であることから、不確実性を伴うものです。現在の科学的知見には限界があり、発生を確実に予測することできませんし、ましてや発生を未然に防止することは不可能です。

私たちにできることは災害による被害を少なくすることです。そのためには日頃から防災のための意識を持つこと、いざ災害が発生したときに備えて訓練の実施や災害用品の備蓄を行うこと等が重要であることは間違いありません。



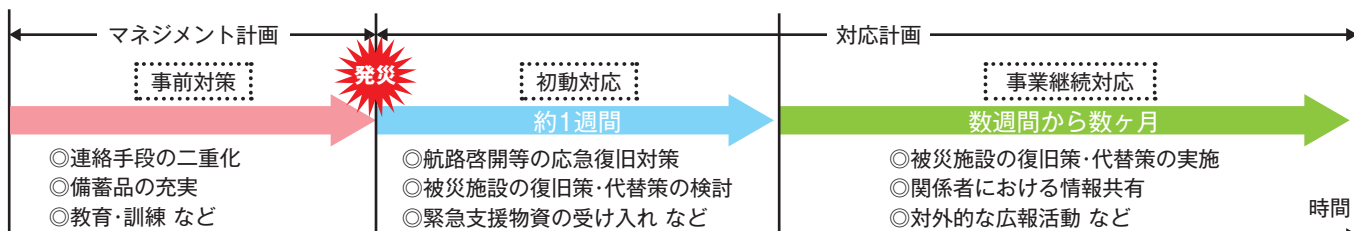
高梁川総合水防演習・ガントリークレーンの固定ピン下げ作業



高梁川総合水防演習・倒壊防止のためのコンテナ固定作業

# 水島港港湾BCP(事業継続計画)の策定について

## 港湾BCPのイメージ



出典:国土交通省港湾局HP

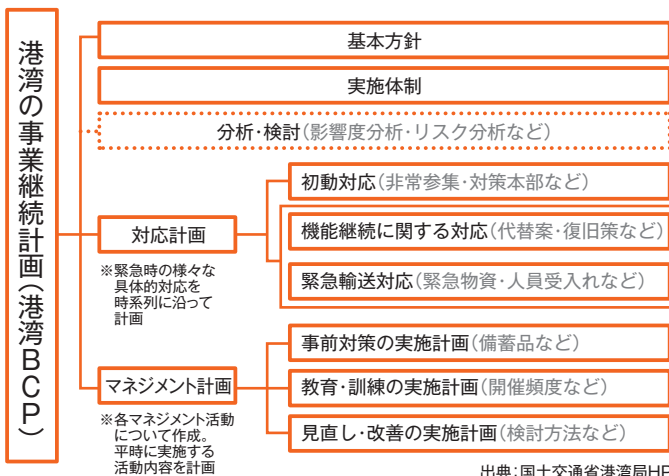


平成27年12月22日、水島愛あいサロンにおいて、関係事業者団体、建設業団体、行政機関で構成する第1回水島港BCP協議会が開催されました。港湾BCPとは事業継続計画(Business Continuity Plan)のことで、大規模災害が発生しても、当該港湾の重要機能が最低限維持できるよう、災害発生後に行う具体的な対応(対応計画)と、平時に行うマネジメント活動(マネジメント計画)等を示した文書のことです。

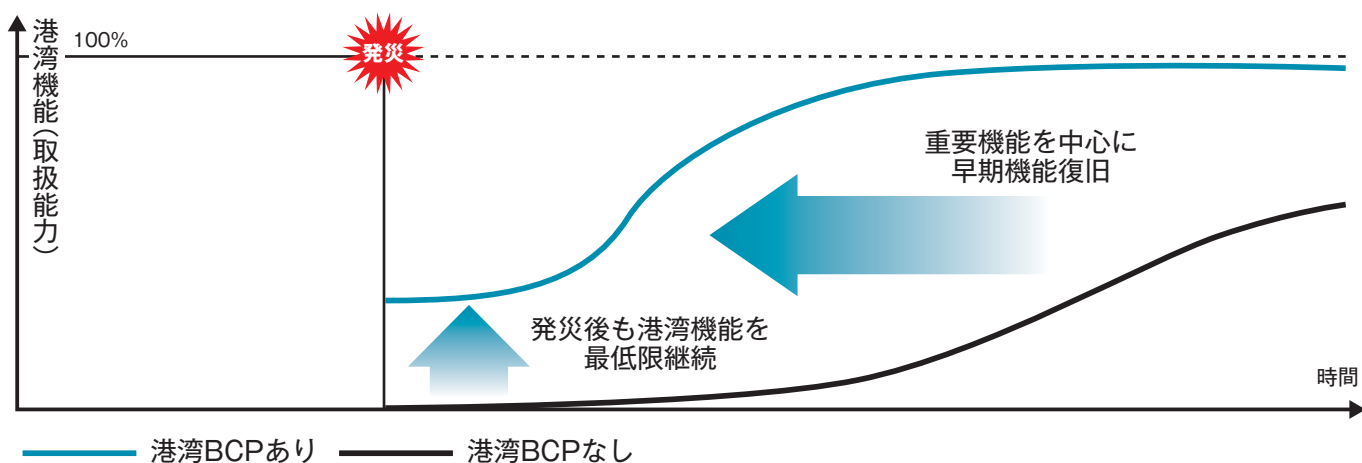
平成28年4月14日以降、震度7を2回も観測した熊本地震は被災地に大きな傷跡を残していますが、岡山県でも南海トラフ地震等をはじめとする大規模災害の発生が危惧される状況の中、水島港BCPの策定が急がれています。

協議会では、県民生活や各産業への影響が大きく、被害を最小限に留める必要がある重要機能として、緊急・救援物資輸送、燃料輸送等を想定し、発災後も港湾機能を最低限継続し、重要機能を中心に早期復旧できるよう、関係機関と議論を重ね、平成28年度末までに水島港BCPの策定を目指しています。

## 港湾BCPの構成



## 港湾BCPの効果(概念図)



出典:国土交通省港湾局HP